

4.8°C

確実に進行しつつある地球温暖化、
今世紀末の世界平均地上気温は、
1986～2005年の平均よりも最小で0.3°C、
最大で4.8°C上昇すると予測されています。
その結果、海面上昇による災害や健康障害、
水資源不足、農業生産量減少などの
深刻な影響が指摘されています。

出典：IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change : 国連気候変動に関する政府間パネル)
第5次評価報告書

課題3

サステナブルな地球と社会のために

地球温暖化の主な要因は、
大気中の二酸化炭素、メタン、
一酸化二窒素などの増加による
「温室効果」と考えられています。

こうした「温室効果ガス」の排出量を
できる限り抑えることが、
今、地球上のすべての企業活動に
求められる課題です。

森永乳業は、
サプライチェーンのすべての局面において、
エネルギー消費・廃棄物を少なくし、
地球環境への影響に配慮した
企業活動を心がけています。

それが、
私たちにできることだから。

この章の森永乳業グループの活動は、
SDGsの以下の目標に関連しています。



循環型社会の実現に向けて、 環境負荷削減と環境保全に 取り組んでいます

森永乳業グループは、地球環境保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、地球温暖化防止、循環型社会の形成と生物多様性保護を推進するために、環境方針を定めています。環境方針達成のための具体策として、3年ごとの「中

期目標」を策定し、年次目標により達成状況の検証を行っています。これらの取り組みは、ISO14001の活動として進めています。

ISO14001 環境マネジメントシステムにおける基本方針

森永乳業の本社、研究所、直系工場および生産関係会社では、ISO14001 環境マネジメントシステムに基づいて活動しており、以下の環境方針を定めています。

基本理念 森永乳業は牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料などの食品を製造、販売する食品企業として「乳で培った技術を活かし 私たちならではの商品をお届けすることで 健康で幸せな生活に貢献し 豊かな社会をつくる」ことを目指しており、社会からの期待を自覚し、地球環境保全や自然保護に努め、社会を構成する一員として社会的責任を果たします。

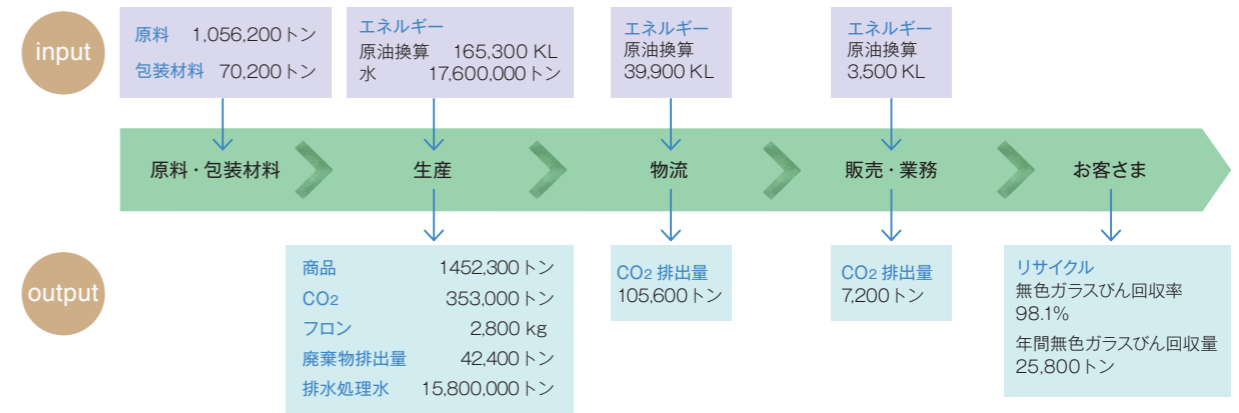
基本方針 活動、製品及びサービスなど事業全般を通じて、有害な環境影響を可能な限り低減し、環境汚染の予防を推進します。
また、環境保全活動の目的及び目標を設定し、定期的な見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
法規制の順守及び社会的要請を踏まえ、環境マネジメントシステムの向上に努めます。
環境管理重点課題として、次の事項に取り組みます。
(1) 地球温暖化防止のため、CO₂排出抑制を推進します。
(2) 限りある資源の有効活用のため、省資源・エネルギーマネジメントを推進します。
(3) 循環型社会形成に向けて、廃棄物の3R（発生抑制、再使用、再生利用）及び適正処理を推進します。
(4) 製品開発を含めた環境に関連する新技術開発を推進します。
(5) 環境情報の発信を継続的にを行い、活動の確認と意識の高揚に努めます。
(6) 社会と地域との共生に努めます。

この方針は、全ての従業員に周知し、社外にも公表します。

改訂 2017年 4月 1日
森永乳業株式会社
社長 宮原 道夫

サプライチェーン（ライフサイクル）と物質フロー

森永乳業グループは、法令基準値より厳しい自主基準値を定め、環境影響の低減に努めています。環境保全活動として取り組んでいるのは、低炭素社会実現に向けて省エネルギー、環境保全技術開発の推進、環境に配慮した調達、商品の環境配慮設計、生産活動における原材料の無駄の削減、3R（発生抑制・再使用・再生利用）による廃棄物削減などです。



2016年～2018年 環境対策中期目標達成状況検証

2016年度に中期計画を策定し、2018年までの3年での達成を目指して取り組みを行いました。指標となる基準年度は2013年度としています。

目標	実績
1. ISO14001 システム強化 内部監査員の養成、2015年度版 ISO14001 への移行	内部監査員の質の向上をめざし、内部監査に必要な力量をレベルごとに設定した。事務所内の内部監査を実施できるレベルの監査員を育成するための講習会を21事業所で実施し、216名が修了した。2015年度版 ISO14001 への移行に向け、事務所ごとに作成していたマニュアルをマルチサイト統一版として作成した。2016年10月に全事業所の担当者による、2015年度版移行のキックオフミーティングを開催した。
2. 温暖化対策として CO ₂ 排出量原単位の低減 基準年度から毎年 1% ずつ削減し 2018年度に 5% 削減とする	2016年度の CO ₂ 排出量原単位は、基準年度に対して 2.6% 減少し、目標未達。製造に当たりエネルギー消費が大きい製品の比率が増加したことや、製造量減少による空調などの固定部分比率の増加が主な要因。
3. 産業廃棄物の削減 (1) 食品廃棄物排出量原単位の低減 基準年度から毎年 3% ずつ削減し 2018年度に 15% 削減とする (2) 産業廃棄物排出量原単位の低減 基準年度から毎年 5% ずつ削減し 2018年度に 25% 削減とする (3) 埋立行廃棄物発生量 2013～2015年度の排出実績平均から毎年 6% ずつ削減し 2018年度に 30% 削減とする (2018年度までの埋立行廃棄物発生量が 680トン以下となるようにする)	(1) 2016年度食品廃棄物発生量原単位は、基準年度比 7.7% 低減し目標未達。食品廃棄物削減の取り組みは進んでいるものの、2016年度は食品残渣が多く発生する製品の比率が増加したことが原因。 (2) 2015年度産業廃棄物排出量原単位は、基準年度比 5.3% 低減し、目標未達。食品残渣削減の減少率が鈍かったことや、排水の余剰汚泥の削減過程で汚泥引き抜き量を増加させた工場があったことなどが原因。 (3) 2016年度の埋立行廃棄物量は 480トンで、目標達成。
4. 用水使用量原単位の低減 基準年度から毎年 0.2% ずつ削減し 5年後に 1% 削減とする	2016年度用水使用量原単位は、基準年度比 1.4% 低減し、目標達成。
5. 容器包装に関連する環境負荷を低減	2016年度に容り法に基づいて申請した容器利用重量は前年比で 3.6% 減少した。
6. 環境活動の確認とステークホルダーへの情報提供を推進	CSR 報告書を通じた環境情報の提供を実施。2016年度は海外事業所の環境負荷データを公開内容に加えた。
7. 生物多様性の保全を支援する	RA(※) 認証原料や FSC 認証紙を使用し、それぞれ RA 認証原料製品 (マウントレーニア ディープエスプレッソ、リプトン 紅茶ラテ) は 27 百万個 (前年比 90.0%)、FSC 認証紙使用製品 (MOW、ピクニック) は 158 百万個 (前年比 101.9%) 販売した。また、地域の水源保護の植林などの取り組み (空堀川クリーンアップ活動、穴田川清掃、木曾川クリーン運動、銭函川清掃、港湾地区清掃活動、佐呂間町植樹祭など) へ参加。

※ RA: レインフォレスト・アライアンス (→ P.28)

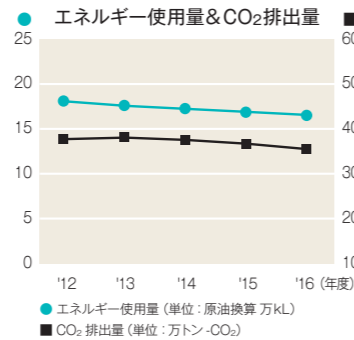
環境 対策

environmental
measure

ライフサイクル全体での 地球温暖化対策を推進しています

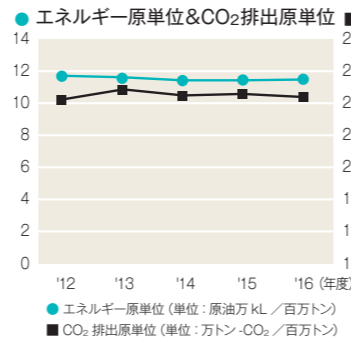
森永乳業グループでは、地球温暖化対策としてCO₂削減の取り組みを進めています。2016年度の生産におけるCO₂排出量は353,000トンで、前年より約11,800トン減少しています。大型ボイラーを小型ボイラーに置き換え蒸気利用の効率化をはかったり、商品冷蔵庫の冷凍機の運用改善を行ったりするなど、各工場でさまざまな取り組みを行いました。

また、流通においても、自動車から鉄道・船舶へ輸送手段を切り替える「モーダルシフト」により、CO₂排出量削減を進めています。



※ 原単位とは、1年間の使用量または排出量を生産量で除したものです
原単位 = 1年間の使用量・排出量 / 1年間の換算生産量 (KL・トン)

CO₂ 排出量削減

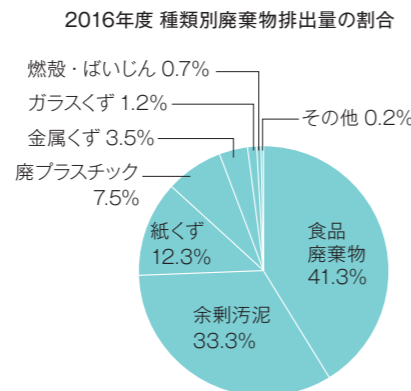


循環型社会をめざして、 廃棄物の削減や再資源化を推進しています

工場の廃棄物には、コーヒー・紅茶の抽出かすなどの食品廃棄物のほかに、紙くずや廃プラスチック、金属くず、排水処理場から発生する余剰汚泥などがあります。2016年度は食品廃棄物が最も多く41%、次いで余剰汚泥が33%とこの2種類だけで全体の74%を占めました。

各工場が工程上のロス削減に取り組み、食品廃棄物の削減を進めています。2016年度は近畿工場、神戸工場で排水処理管理方法の変更や排水処理場に空気を送り込む散気管を更新し、曝気効率を高めることで年間350トンの余剰汚泥を削減しました。

ゼロエミッション



※ 当社では「ゼロエミッション」の基準を、再資源化率 99.0%以上を3年以上維持と定義

種類別廃棄物排出量

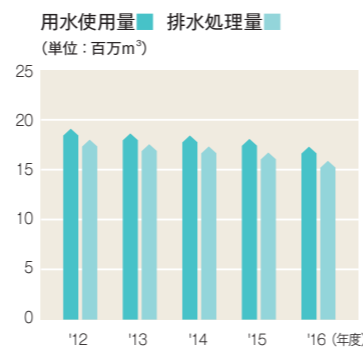
合計 = 42,400 トン	
食品廃棄物	17,500 トン
余剰汚泥	14,100 トン
紙くず	5,200 トン
廃プラスチック	3,200 トン
金属くず	1,500 トン
ガラスくず	500 トン
燃殻・ばいじん	300 トン
その他	100 トン

水資源を大切に使用し、 排水管理を徹底しています

水資源の保全

工場での水資源の無駄づかいをなくすための改善を積み重ねるとともに、排水処理技術の開発・改良を重ね、水質保全に取り組んでいます。使用後の排水をきれいに自然に還すために、すべての工場に排水処理施設を備えています。排水処理場では「活性汚泥」と呼ばれる微生物が排水の汚れである栄養成分を食べること

で汚れを取り除き、その活性汚泥を重力で分離して処理水を放流しています。一部の工場では、活性汚泥の分離に膜を使用する MBR (膜分離活性汚泥法) を導入しています。膜分離のため、これまで以上に処理水の清澄度が高い排水が得られています。



調達先・取引先とともに 環境に配慮した調達をめざしています

CSR調達の推進

森永乳業では、2017年10月を目標に、新たに策定された経営理念を踏まえた、新たな調達方針を策定しています。

商品の原料・容器包装の調達について、法令・社会規範の遵守、人権・環境への配慮、品質・価値の維持・向上に、取引先とともに取り組み、同時に、公平・公正・透明な取引関係の構築をめざします。

品質向上の取り組みについては、すでに20

年以上前から、取引先との情報交換(品質向上セミナー)を定期的で開催し、認識の共有をはかっています。また、容器包装について、これまで牛乳びんや紙パック、ヨーグルト容器の軽量化などを実現しています。原料調達については、レインフォレスト・アライアンス認証(※1)のコーヒー豆や紅茶葉の調達、パーム油のRSPO認証(※2)について調査を進めています。



マウントレーニアの原料はレインフォレスト・アライアンス認証農園で栽培されたコーヒー豆を使用。ビヒダスのパッケージは、軽量化、薄肉化を推進しています

FSC® 認証紙の採用を推進しています

「MOW (モウ)」は、2003年に発売された、素材の味わいを大切に濃厚でクリーミーなカップアイス。そのコンセプトから、自然を大切に作る姿勢を商品開発に反映させています。



2008年より、スリーブ部分に古紙100%再生紙を採用。さらに生活者の自然環境に対する意識の高まりに応え、2010年よりFSC® 認証(※3)紙を採用しています。冷菓事業部では、今年4月に新たなプロジェクトを立ち上げ、2018年を目標に冷菓商品に使用するすべての紙資材についてFSC® 認証紙の採用を検討しています。



※1 [レインフォレスト・アライアンス認証]

非営利団体レインフォレスト・アライアンス(Rainforest Alliance)による認証。地球環境保護と人々の持続可能な生活を確保するために、森林や生態系の保護、土壌や水資源の保全、労働環境の向上や生活保障など、厳しい基準を満たした農園のみ与えられる。

※2 [RSPO認証]

熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないよう、非営利組織「持続可能なパーム油のための円卓会議」(Roundtable on Sustainable Palm Oil)の定める一定の基準を満たしていることを示す認証制度。

※3 [FSC® 認証]

森を守る国際的な認証制度。環境保全の視点から、適切で社会的な利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理のもとで生産された森林資源を使用していることを、FSC (Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会)の基準で、第三者の認証機関が審査・認証したものに発行される。

Voice 03

CSR調達の推進には、 会社全体の意識の統一が大切です

生産本部 調達部
一般原材料調達課 課長

元下 博照

原材料の調達にも、品質、価格、納期、技術力はもちろんのこと、環境や人権配慮といった社会の重要課題への配慮が求められる時代となりました。そのような時代背景を考えると、現在進めている調達方針の策定は森永乳業グループにとって大きな意味を持つ取り組みだと思います。今後は、方針に基づく調達の実現に向けて、

全社的な理解、意識の統一が大切であると認識しています。

また、安定的な原材料の調達・供給も調達部の重要な役割です。2011年に東日本大震災が発生した際、原材料を確保するために東奔西走しました。どんな時も安



定した調達を実現し、事業継続をはかることが求められており、それが社会的責任でもあるとつねに意識して取り組んでいます。